

41

【難易度】…標準

原点のまわりを反時計回りに θ 回転させる行列を $P(\theta)$ とし、行列 A を次のように定め、 n は自然数とする。

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix}$$

- (1) $\{P(\theta)\}^n = P(n\theta)$ であることを示せ。
- (2) A^6 および A^{6n} を単位行列 E を用いて表せ。
- (3) $E + A + A^2 + \dots + A^{6n-1}$ を求めよ。

【テーマ】: 行列の累乗・回転行列

方針

(1) は、数学的帰納法を用いて証明を行います。(2) は、(1) で示したことを用いて、計算を行きましょう。(3) は、 $x^6 - 1$ の因数分解を利用します。

解答

(1) 【証明】

題意から、 $P(\theta) = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$ である。

(i) $n = 1$ のとき、明らかに成り立つ。

(ii) $n = k$ のとき、すなわち、 $\{P(\theta)\}^k = P(k\theta)$ が成り立つと仮定すると、

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^k = \begin{pmatrix} \cos k\theta & -\sin k\theta \\ \sin k\theta & \cos k\theta \end{pmatrix}$$

両辺に、 $P(\theta)$ を右からかけると、

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^{k+1} &= \begin{pmatrix} \cos k\theta & -\sin k\theta \\ \sin k\theta & \cos k\theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos k\theta \cos \theta - \sin k\theta \sin \theta & -(\cos k\theta \sin \theta + \sin k\theta \cos \theta) \\ \sin k\theta \cos \theta + \cos k\theta \sin \theta & -\sin k\theta \sin \theta + \cos k\theta \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos(k+1)\theta & -\sin(k+1)\theta \\ \sin(k+1)\theta & \cos(k+1)\theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

また、両辺に $P(\theta)$ を左からかけると、

$$\begin{aligned} \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^{k+1} &= \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \cos k\theta & -\sin k\theta \\ \sin k\theta & \cos k\theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos k\theta \cos \theta - \sin k\theta \sin \theta & -(\cos k\theta \sin \theta + \sin k\theta \cos \theta) \\ \sin k\theta \cos \theta + \cos k\theta \sin \theta & -\sin k\theta \sin \theta + \cos k\theta \cos \theta \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \cos(k+1)\theta & -\sin(k+1)\theta \\ \sin(k+1)\theta & \cos(k+1)\theta \end{pmatrix} \end{aligned}$$

したがって、 $n = k + 1$ のときも成り立つ。

よって、(i)、(ii) より、 n が自然数のとき、 $\{P(\theta)\}^n = P(n\theta)$ が成り立つ。

(証明終)……(答)

(2)

$$A = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -1 & \sqrt{3} \\ -\sqrt{3} & -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \cos \frac{4}{3}\pi & -\sin \frac{4}{3}\pi \\ \sin \frac{4}{3}\pi & \cos \frac{4}{3}\pi \end{pmatrix}$$

であるから, (1) より,

$$A^6 = \begin{pmatrix} \cos \frac{4}{3}\pi & -\sin \frac{4}{3}\pi \\ \sin \frac{4}{3}\pi & \cos \frac{4}{3}\pi \end{pmatrix}^6 = \begin{pmatrix} \cos 8\pi & -\sin 8\pi \\ \sin 8\pi & \cos 8\pi \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = E$$

ゆえに, $A^6 = E, A^{6n} = E \dots \dots$ (答)

(3) $AE = EA = A$ であるから, 次の等式が成り立つ.

$$(E - A)(E + A + A^2 + \dots + A^{6n-1}) = E - A^{6n}$$

(2) より, $A^{6n} = E$ であるから,

$$(E - A)(E + A + A^2 + \dots + A^{6n-1}) = O \quad (\text{ただし, } O : \text{零行列}) \dots \dots \textcircled{1} \quad \text{☞ 公式}$$

$\Delta(E - A) \neq O$ であるから, $(E - A)^{-1}$ が存在するので, ①の両辺に左から $(E - A)^{-1}$ をかけて,

$$E + A + A^2 + \dots + A^{6n-1} = O \dots \dots \text{(答)}$$

**解説**

(1) $P(\theta)$ の行列が分からないと手がかつられないので, 原点まわりの回転を表す行列は必ず覚えておこう. 原点のまわりに時計と反対方向に θ 回転させる行列 P は,

$$P = \begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

と表される. また, この設問の (1) で証明した関係式は, 一般的に覚えておくとよいだろう.

またこのことは, 別の考え方で証明することができる. 原点のまわりに θ 回転させる行列が

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}$$

であれば, 原点のまわりに 2θ 回転させる行列は,

$$\begin{pmatrix} \cos 2\theta & -\sin 2\theta \\ \sin 2\theta & \cos 2\theta \end{pmatrix}$$

である. 原点のまわりに 2θ 回転させるということは, 原点のまわりに θ 回転させることを 2 回繰り返すことであり, すなわちこれを n 回繰り返すことは, 原点まわりに $n\theta$ 回転させることと同じである. よって,

$$\begin{pmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{pmatrix}^n = \begin{pmatrix} \cos n\theta & -\sin n\theta \\ \sin n\theta & \cos n\theta \end{pmatrix}$$

が成り立つ.

公式 【因数分解の公式】

$$x^n - y^n = (x - y)(x^{n-1} + x^{n-2}y + x^{n-3}y^2 + \dots + x^2y^{n-3} + xy^{n-2} + y^{n-1}) \quad (n \text{ は自然数})$$

$$x^n + y^n = (x + y)(x^{n-1} - x^{n-2}y + x^{n-3}y^2 - \dots + x^2y^{n-3} - xy^{n-2} + y^{n-1}) \quad (n \text{ は自然数の奇数})$$